



松本市立波田小学校

学校だより

令和 5 年 1 月 23 日

まつかぜ No.10

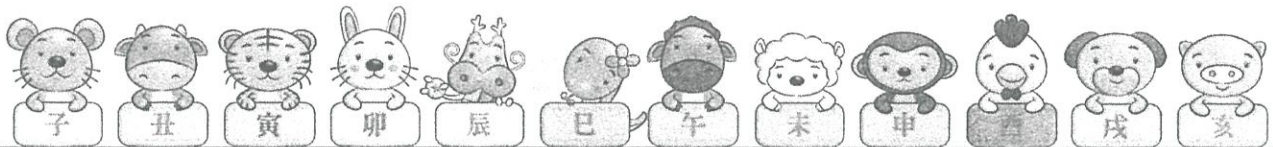
新しい年がスタートし早いもので一カ月が過ぎようとしています。地域の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本校の教育活動に温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

1月6日（金）子どもたちの元気な挨拶から3学期がスタートし、高学年（456年生）は、3年ぶりのスキー教室に行くことができました。

新型コロナウイルス感染症、インフルエンザにつきましては、少しずつ増えてきている状況です。感染状況に注視し感染防止対策に努めながら教育活動を進めていきますので、今後ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



3学期始業式 ～校長先生のお話を紹介します～



みなさん、あけましておめでとうございます。令和5年、2023年が始まりました。

古くから年の変わり目や季節の変わり目といった区切りを、日本では「節目」といって、とても大切にしてきました。新年もその一つです。ここを一つの区切りとして目標を立て、頑張っていこうという一年のはじまりの時です。また、3学期は1年のまとめの学期です。これまで勉強したことを使って、身の回りのいろいろなことに対して考えを深めていく3学期にしましょう。特に6年生は、中学への準備を始めていきましょう。

今日は干支、十二支とも言いますが、寅年とかうさぎ年という生まれ年のお話をします。話の中に出てくる算数の問いは、5、6年生向きです。考えてみてください。

さて、今年はいしぎ年です。皆さんは十二支を知っていますか。全部言えるでしょうか。

今年には正式には癸（みずのと）卯（う）の年です。「十二支のはじまり」（谷真介・文、赤坂三好・絵 佼成出版社）という絵本によりますと、干支は、もともと中国で使われていた暦の表し方で、中国古来の10個の哲学上の道理（十干）；甲（きのえ）、乙（きのと）、丙（ひのえ）、丁（ひのと）、戊（つちのえ）、己（つちのと）、庚（かのえ）、辛（かのと）、壬（みずのえ）、癸（みずのと）と、12個の動物の名前；ねずみ、うし、とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししを組み合わせ、年や月日を表していたのだそうです。それが1300年ほど前に日本にも伝わってきたとのこと。10と12の組み合わせで、一回りを人生の節目（還暦）としています。10と12の最小公倍数です。5、6年生は算数で「最小公倍数」の勉強をしましたね。

6年生の早生まれのみなさんと5年生の12月生まれまでのみなさんは、平成23年生まれの「辛（かのと）卯（う）年」のみなさんです。150人くらいでしょうか。元旦の新聞（長野日報）によ

ると、辛卯うまれの人は、長野県内に17400人いるそうです。17400人のうちの150人近い人がこの波田小にいると考えるとすごいなあと思います。17400人のうちの150人、約何パーセントになるのでしょうか。また、先ほどの10の哲理と12の動物の組み合わせでの一回り、人生の節目は何年になるのでしょうか。みなさんが勉強している算数は、こういう生活の中のいろいろなことを客観的に考えるときに役に立ちます。ぜひ勉強したことを生活の中で使って考えてみましょう。

先ほど、みなさんの代表として1年から2人、5年から1人の計3人が目標を発表してくれました。みなさんも目標を立てましたか。私は、毎日20ページは本を読むことを目標にしました。新年から5日間、今のところ続けられています。1年間続けたら、20ページ×365日です。何ページになるか楽しみです。

今日は、「干支の話」に算数の内容を織り交ぜながらお話ししました。

うさぎ年の今年、ぴよんぴよんジャンプして飛躍の年になるように、そして、3学期がこれまで勉強したことを使ってしっかりまとめをする学期になるように、みんなでがんばりましょう。

【校長先生のお話から、今年の干支からどんな意味があるかを調べてみました】

60年に一度の「癸卯(みずのと・う)の年」…「癸(みずのと)」は、「ものごとの終わりと始まり」を意味する他に、「揆(はかる)」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前」という意味だそうです。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ、「春の訪れ」を感じるという意味、また「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとされています。この二つを組み合わせる「癸卯(みずのと・う)」には、「これまでの努力が花開き、実り始める」といった縁起のよさがあるのだそうです。

子どもたちの姿から～牛乳ケース洗いと床磨き～

日々の教育活動の中に位置づいている「給食」と「清掃」。冬期の「牛乳びんのケース洗い」と「渡り廊下の床磨き」をしてくれる子どもたちの姿を紹介します。

本校は、毎朝、職員が各学級分に牛乳を仕分けます。それを、給食準備の時間に牛乳当番が教室へ運びます。低学年は、2つのオレンジケースに牛乳を分けて運びます。各学級から戻ってきた空の牛乳瓶を、職員が青(40本)ケースに詰め替えた後、オレンジケースを給食委員が洗ってくれます。お湯を使っても寒いのですが、嫌な顔をせず、丁寧に洗ってから水切り場に整頓しクラスごとに置いてくれます。

また、管理棟と南校舎をつなぐ2階、渡り廊下のコンクリート床を3、4年生が、無言で一生懸命、拭きます。4年生はデッキブラシで擦った後、雑巾がけをしてくれます。とても綺麗で自慢の床です。保護者の皆様には、同じように雑巾がけをした経験がある方もおられるのではないのでしょうか。

学校で日々、あたりまえのように行われている活動の中には、子どもたちが大切に受け継いでいるものがたくさんあります。その一つ一つが、あたりまえではなく子どもたちの心の表れであり、かけがえないものであることを忘れず、子どもたちと一緒に継続していきたいと思えます。

「大寒」の暦とおり、寒波の影響で厳しい寒さが続きます。お体をご自愛ください。

▼牛乳ケースあらい



▼渡り廊下清掃

